

広島大学本部跡地の活用に係る過去の主な経緯

昭和 49 年 2 月	広島大学の統合移転先を東広島市に決定
平成 7 年 3 月	広島大学の統合移転完了
平成 11 年 3 月	跡地の一部(3.0ha)を市が取得(平成 8 年度)し、東千田公園を整備
平成 17 年 3 月	跡地の一部(2.2ha)を民間企業が取得し、マンションと商業施設を整備
平成 18 年 3 月	広島地域大学長有志懇談会が「ひろしまの『知の拠点』再生プロジェクト（仮称）」（以下「プロジェクト」という。）を市長へ提案
平成 18 年 11 月 ～平成 19 年 4 月	本市及び広島大学が事業予定者を募集し、応募した 5 者の中から事業予定者を選定
平成 20 年 9 月	事業予定者から経営不振のためプロジェクトの継続が不可能である旨の申出。事業の取止め
平成 20 年 10 月 ～平成 25 年 3 月	区域全体の土地利用の見直しや土地の整形化などの事業スキーム案の検討を開始 本市と独立行政法人国立大学財務・経営センター（当時※）との土地交換を検討したが、これが困難となったため、本市がプロジェクトの実現のため広島大学旧理学部 1 号館及びその敷地を無償取得することを決定
平成 25 年 4 月	広島大学旧理学部 1 号館及びその敷地の所有権を本市が無償取得
平成 25 年 6 月	独立行政法人国立大学財務・経営センター（当時）の所有地について、本市と広島大学が共同で事業予定者の募集を開始 9 月末までに 4 者が応募
平成 25 年 12 月	本市と広島大学が、三菱地所レジデンス他 7 者で構成するグループを事業予定者として選定し、協定書を締結
平成 26 年 2 月	事業予定者が土地を取得し、地形測量や仮囲い設置などに着手（以下、事業予定者を事業者とする）
平成 26 年 3 月	グループに 1 者が加わり 9 者での構成
平成 25 年 10 月 ～平成 26 年 3 月	本市が広島大学旧理学部 1 号館の劣化状況調査を実施
平成 26 年 7 月	本市と広島大学が事業者の提出した事業実施計画を承認
平成 26 年 8 月	広島大学が広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用に関する要望書を本市に提出
平成 26 年 10 月	広島大学が東千田未来創生センターの工事に着手
平成 27 年 6 月	本市と広島大学が事業者の提出した事業実施計画の変更（スケジュール等）を承認
平成 27 年 7 月	事業者が工事に着手
平成 27 年 12 月 ～平成 28 年 1 月	本市が広島大学旧理学部 1 号館の保存・活用について市民アイデアを募集
平成 28 年 4 月	広島大学が広島大学東千田未来創生センターを開設

※独立行政法人国立大学財務・経営センターは、平成 28 年 4 月 1 日付けで独立行政法人大学評価・学位授与機構と統合し、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構となった。